

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援放課後等デイサービスみらいく		
○保護者評価実施期間	2024年10月21日		～ 2024年10月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2024年10月21日		～ 2024年10月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月11日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のお子さま、親御さんの立場や考えなどを、しっかりと聞き取り、理解したうえで、最善の療育内容を考えて、毎日の療育を行っている。	一人一人の子どもの様子や行動、言動などを、詳細に確認し、親御さんの意見もお聞きしながら、その子にとって最善の療育は何か?という問いかけを、毎回しながら療育している。	職員会議を今まで以上に実施し、子供の様子について、職員間で情報共有することによって、どの職員が担当になっても、最善の療育ができるよう、職員間のコミュニケーションを充実させる。
2	市販している、療育に関する道具を使うのではなく、手作りの療育グッズを使ったり、おやつ作りをすることで、温かみのある療育ができるだけでなく、SDGsに関する知識も身に着けることができる。	家にある材料を使って、いろんなものを作成することで、リサイクルに関する意識を身に付けるようにしている。おやつ作りなどを定期的実施することで、食に関する療育も実施できている。	県や市などが主催する発表会などに、皆で協力して作成した作品を提出することによって、チームとしての一体感を体験してもらえるようにしたい。
3	季節に合わせて、様々なイベントを行うことにより、季節感を感じ取ってもらうだけでなく、自分で考えてモノを作ることによる、創造性の向上を図る。	正月、子供の日、お盆、ハロウィーン、クリスマス会などの季節合わせたイベントや、皆で協力して制作を行うことで、季節に合わせた療育を実施している。	子どもだけのイベントにするのではなく、親御さんも招待してのイベントを実施するなどして、ご家族のコミュニケーションアップも図ってきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所して間もないころは、人数が少なく、お友達とのコミュニケーションを図る機会が少なかったが、徐々に人数も増えてきており、そのような状況も解消してきている。	フランチャイズではないため、認知度が低く、集客に苦戦した。	良い施設であることを周知するため、SNSなどを活用して、情報発信を行っていく。
2	当初は、生徒人数が少なかったため、先生の人数も必要最低限の法定人数となるため、人数が一時的に多い日が増えても、受け入れができず、お断りする必要があった。	フランチャイズではないため、認知度が低く、集客に苦戦した。	良い施設であることを周知するため、SNSなどを活用して、情報発信を行っていく。
3	外部機関との地域交流などに参加する機会が少ない。	開所して間もないことから、こどもの療育に専念している。	こどもが増えてきたら、スタッフを増員する。スタッフの療育スキルを向上させ、できた時間で外部との交流を図るなどしていきたい。